1953年6月16日　第三種郵便物認可

2022年 6 月13日（月）　3114号　隔週月曜日発行

# 民主青年新聞

●ホームページ　www.dylj.or.jp　●Eメール　minsin@dylj.or.jp

見どころ

賃上げで再び成長できる国に　新自由主義からの転換を（３面）

いろいろな人の立場に立ちたい　神奈川県立二俣川看護福祉学校・手話部（６、７面）

みんなの力で政治を動かそう―選挙制度を分かりやすく解説！（10、11面）

# 深刻な教員の多忙化、長時間労働

教員の異常な長時間労働が深刻です。時間外労働時間は平均して過労死ラインを超えているといわれます。教員の多忙化はなぜ起き、どうすれば解決できるのか。そして、教員の自主性が尊重される教育現場をつくるには何が必要なのか、青年教員の声を基に考えます。

（文中は一部仮名、塩田悠玄記者）

▶学校で授業を受ける生徒（本文と写真は関係ありません）

## 今こそ政治変えて解決を

### やりがいはある！だけど…

公立小学校に勤務する川口美里さん（23）は、今年の4月で教員2年目です。

「小学4年時の担任の先生に憧（あこが）れていたことがきっかけで、先生を目指した。子どもたちと近い距離で過ごせるのがやりがい」と川口さん。ただ、やりがいと同時に長時間労働への不安も感じており、「午前8時半から午後5時までの勤務時間だけど、午後8時まで働くことが多い。毎日平均すると10～11時間くらい働いている」と川口さんは言います。「勤務時間内に業務が終わらない。授業準備に時間を使いたいけど、子どもに何か問題が起きたら保護者に電話して、それが終わったらもう夕方5時。『より良い授業を』とがんばって準備をするから、土日に翌週の授業準備をする。それが当たり前になっている」

教員の労働環境に求めることについて、川口さんに聞くと「やっぱり人手が増えてほしい」と答えました。「今先生を続けられているのは、子どもが大好きで、幸せを感じるときがあるからだし、自分の思いを聞いてくれる同期や先生がいたのもある。でも先生みんながそうではない。辞めていく先生がいるのは当然（の環境）」と話しました。

「子どもたちが目を輝かせて学ぶのを見るときに、やりがいを感じる」と話すのは、小学校に勤務する山下公平さん（27）です。

「子どもたちには、『楽しい』と思って学んでもらえることを大事にしている」と山下さん。「毎日子どもたちと向き合えることがうれしい」と話す一方で、「働き過ぎで職場に行けなくなったこともある」とも言います。「教員は残業しているという実感が薄い。遅くなったとしても、『子どもたちのために何かできることはないか』とがんばっているから」

山下さんは、「自由な時間が確保できれば、教員自身が学びたいことに時間を使える。そういう教員自身の学びが、子どもの学びをより豊かにできると思う」と話しました。

### さまざまな多忙な実態明らかに

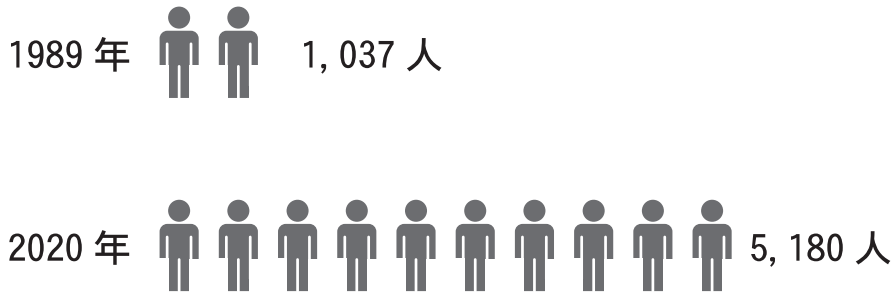
全日本教職員組合（全教）青年部は今年3月に「変えていこう働き方青年教職員アンケート2021」の結果を発表。2021年5～7月にかけて、969人が回答した同アンケートでは、教員の多忙化の実態が明らかになりました。

全教青年部は結果について、「勤務時間内に授業準備する時間が保障されていない」「最低でも1コマ当たり授業準備に1時間以上を必要とする声が半数。担当持ち時数（コマ数）の上限設定が急務」「部活動について、ガイドラインの上限超えが多数。将来的には社会教育に移行することを望んでいる教員が多い」などと分析。「若い世代ほど精神疾患（しっかん）の割合が高く、（中略）『20歳代』『30歳代』はここ5年間の推移を見ても急激に増えている」と指摘し、「この悲鳴の背景には、青年教職員が生活時間や健康を削りながら教育活動をせざるをえない条件整備の劣悪さがあることは明らかではないでしょうか」と述べています。

文部科学省「教員勤務実態調査」（16年）では、実際に日本の教員は平日は平均12時間近く働き、休みのはずの土日も働いていることが明らかになりました。また、全教青年部のアンケートでも指摘されていた通り、過労と密接な関係のある精神疾患による休職者数は90年代後半から急増し、07年から10年以上、5千人前後と高止まりをしたままです。教員の長時間労働は限界に達しています。

（2面につづく）

**精神疾患による休職者数（公立教職員）**




文部科学省「令和２年度　公立学校教職員の人事行政状況調査について（概要）」、日本共産党「教職員の働き方を変えたい」を基に作成

**残業時間（一週間当たり）**

| | 1966 年 | 2016 年 |
|---|---|---|
| 小学校 | 2 時間 36 分<br>（1 時間 20 分） | 24 時間 30 分 |
| 中学校 | 4 時間 03 分<br>（2 時間 30 分） | 29 時間 41 分 |

※1966年調査の数値は１～12月の調査から８月を除いた数値。その下のカッコ内の数値は、そこから勤務時間外での報酬を受けての補習、勤務時間内の社会教育団体等の学校関係団体の仕事に従事した時間等を相殺した数値（この数値の小中平均は１時間48分）。2016年は10月あるいは11月のある一週間の数値

藤森毅『教師増員論――学校超多忙化の源をさかのぼる』（新日本出版社）を基に作成

発行所
日本民主青年同盟中央委員会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-2
電話(03)5772-5701　FAX(03)-5772-5702

日本民主青年同盟中央機関紙

定価（税込み）月680円　〒130円　1部340円
郵便振替00180-4-106690